

授業科目名	臨床薬理 <i>Clinical Pharmacology and Therapeutics</i>					担当教員	柳原 延章				
開講年次	1年後期	セメスター	2			時間数(単位数)	30(2)				
必修選択	選択 (CNSコース必修)	授業形態	講義			使用教室					
授業の目的	薬品が生体に及ぼす影響およびその作用機序について学び、多様な健康問題をもつ対象の特性や病態に応じて使用される薬物の判断根拠、投与後のモニタリング、服薬管理能力の向上のための臨床応用の知識を獲得する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法に関して、基本的知識を身につけることができる。 2. 日々進歩する新しい治療法を理解し説明することができる。 3. 最新の医薬品情報を適宜収集・確認する習慣を身につける。 4. エビデンスに基づいた薬物治療を理解することができる。 5. 看護の分野における薬物管理の実際を理解することができる。 										
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6 (保健)	DP6 (CNS)	DP7 (CNS)	DP6 (助産)	DP7 (助産)	DP8 (助産)
						◎	○				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 臨床薬理学の基本的な考え方 (高橋浩二郎：九州東邦株式会社) 2回 臨床薬物動態学(1) (柳原) 3回 臨床薬物動態学(2) (柳原) 4回 エビデンスに基づく薬物治療(1) (高橋富美：産業医科大学) 5回 エビデンスに基づく薬物治療(2) (高橋富美：産業医科大学) 6回 エビデンスに基づく薬物治療(3) (高橋富美：産業医科大学) 7回 薬物の作用と有害反応(1) (高橋浩二郎：九州東邦株式会社) 8回 薬物の作用と有害反応(2) (高橋浩二郎：九州東邦株式会社) 9回 エビデンスに基づく薬物治療(4) (高橋富美：産業医科大学) 10回 エビデンスに基づく薬物治療(5) (高橋富美：産業医科大学) 11回 薬物治療学総論(1) (柳原) 12回 薬物治療学総論(2) (柳原) 13回 臨床薬学のまとめと復習 (柳原) 14回 在宅看護分野における療養者の薬物投与と生活調整、服薬管理 在宅療養者の薬物投与と投与後のモニタリングと生活調整、服薬管理の実際を学ぶ 15回 クリティカルケア看護分野における患者の薬物投与と生活調整、服薬管理 クリティカルケア看護分野における患者の薬物投与と投与後のモニタリングと生活調整、服薬管理の実際を学ぶ 										
学習方法	授業内容について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。いくつかのテーマに関して、事前課題を提示する。その課題レポートおよび、講義を合わせて理解し、考察を行う。										
オフィスアワー	yanagin@med.uoeh-u.ac.jp (柳原) ftakahashi@med.uoeh-u.ac.jp (高橋富美) t-kojiro@kitakyu-hp.or.jp (高橋浩二郎) までアポイントをとってください。										
テキスト	日本臨床薬理学会：臨床薬理学 第4版. 東京, 医学書院, 2017.										
参考文献	随時提示する。										
評価方法	授業への参加度・プレゼンテーション(20%)、筆記試験(80%)										